

三鷹市をより「子育てしやすい」「住みやすい」 まちにするために

—「若年層の行政への参画の活性化」からのご提案—

チーム名：大正大学ミタカミライ研究部
岩崎爽馬, 河野航大, 金子佳寛, 中村十真, 高山奈々, 森岡咲南, 菊地颯太
ゼミ教員：田島恵美, 前田長子 研究協力者氏名：島田真理
大正大学 社会共生学部 公共政策学科

キーワード：中高生, 子育て, 行政参画, 提言, 進路

(1) 研究の要旨

三鷹市の市民満足度調査によると、子育て世帯の暮らしやすさは高く評価されている一方で、子ども・子育て施策への満足度は低いというギャップがある。また、三鷹市の子育て政策は乳幼児向けの支援が多いのに対し、中高生向けの施策が少ない傾向にある。そこで、中高生がどのような支援を必要としているのか、独自のアンケート調査を行ったところ、中高生の進路や地域への意見表明の機会を増やすことが重要ということがわかった。

これらの結果を踏まえ、今回私たちは「ミタカみらいラボ」を提案する。本提案は、ステップ①の進路相談が支援できる「ミタカ step up cafe」と、ステップ②の中高生が市に直接提案できる「私のまちプロジェクト」の二つのステップからなる。これにより、中高生が進路について相談できる場を提供し、受験や将来への不安を軽減するとともに、地域への意見表明の機会を創出する。これらの取り組みを通じて、中高生の行政参画を促進し、三鷹市をより子育てしやすい町へと発展させる「ミタカ循環モデル」を形成し、「より子育てしやすいまち 三鷹」の実現を目指す。

(2) 背景

三鷹市が行っている令和4年三鷹市市民満足度調査アンケートの回答データから、「三鷹市は子育て世帯が暮らしやすいまちだと思う」人は60.4%(図1)と高い一方で「子ども・子育て施策に満足している」人は25.9%(図2)と、子育て世帯の暮らしやすさと子ども・子育て施策の満足度には差がある。

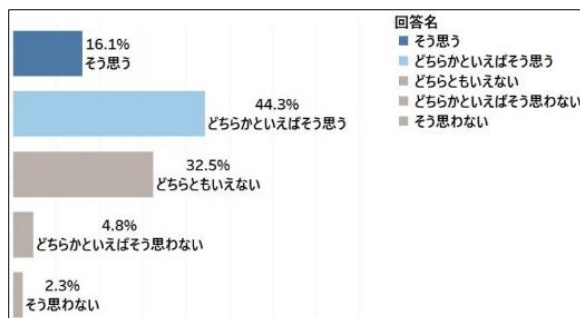


図1 三鷹市が子育て世帯が暮らしやすいまちだと思いますか

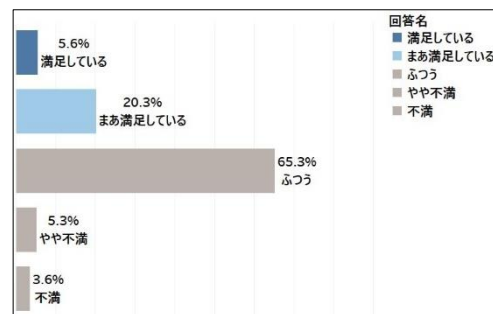


図2 三鷹市の子ども・子育て施策に満足していますか

出典 令和4年三鷹市市民満足度調査アンケート(2022)

また、子育てには、子どもを育てる側の保護者と育てられる側の子どもが存在する。したがって、子ども・子育ての課題は育てる側の状況だけでなく、育てられる側の視点に立った検討も必要なのではないかと考えた。そこで、三鷹市と武蔵野市の子育て政策を比較したところ、三鷹市では乳幼児向けの政策は多いものの中高生向けの政策が少ないことがわかった。(図 3 三鷹市子育て事業一覧) 一方で、武蔵野市ではどの年代も均等に取組まれていた。(図 4 武蔵野市子育て支援事業一覧)

名称	対象	頻度	規模	費用
子どもショートステイ	1歳6か月～中3	6泊7日迄	市内	有
ファミリーサポートセンター	0歳3か月～小4	毎日	市内	有
地域こどもクラブ	小学生	放課後土日	市内	無
子ども発達支援センター	妊娠～18歳の子と親	平日のみ	市内	無
育児支援ヘルパー事業	1歳未満	平日のみ	市内	有
子育てワークショップ	0～6歳の子どもの母親	月1～4日	市内	無
ホームスタート	産前～未就学児のいる家庭	週1	市内	無

図 3 三鷹市子育て支援事業一覧

出典 三鷹市ホームページ(2025)をもとに作成

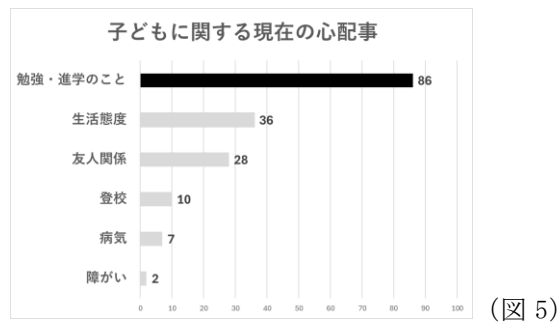
名称	対象	頻度	規模	費用
Teens△ムサカツ	中高生	定期的	市内	無
若者サポート事業みらいる	15～18歳	平日	市内	無
地域子供館あそべえ	小学生	通年	市内	無
とことこおやこひろば	幼児期	毎週	市内	無
武蔵野プレイス	小中高生	年通	市内	有
中学生・高校生リーダー	在住・在学の中高生	月1～3	市内	無
子どもの学び・遊びの場	小学生以上	月1～週1	市内	無

図 4 武蔵野市子育て支援事業一覧

出典 武蔵野市ホームページ(2025)をもとに作成

上記で示した分析から、子ども・子育ての課題については、育てる側と育てられる側双方の立場からの検討を行うとともに、特に中高生に焦点をあてた子育て支援の拡充が必要だと考えた。

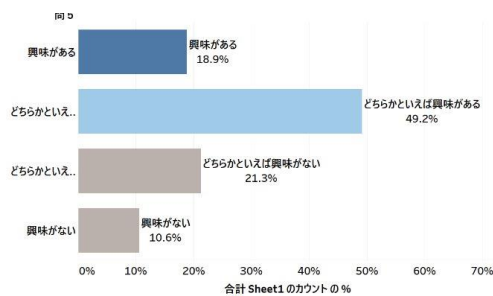
さらに、中高生の子どもがいる親の心配事について調査を行ったところ、「勉強、進学のこと」と答えた人が 64%と最も高く、(図 5) 育てる側である親は子どもの勉強や進学について心配していることがわかる。



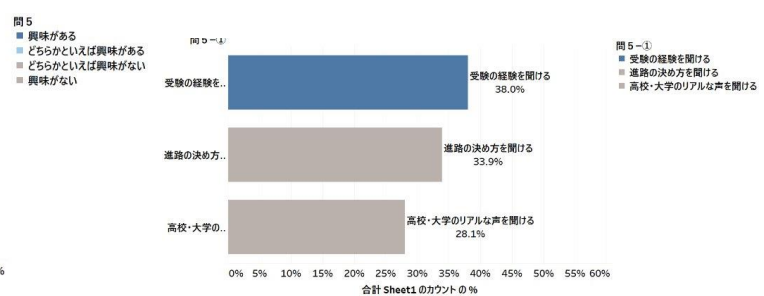
(図 5)

出典 平成 30 年 NPO 法人パワーウェブ日出「子育ての悩みにに関する調査」

一方で育てられる側である子どもの悩みについて、私たちが中高生時代、実際に悩んでいたことを考えたところ、進路についての悩みが最も多くあった。例えば、進路の決め方や環境が変化することへの不安、親と進路についての意見が食い違うことなどが挙げられた。そこで、中高生を対象とした独自アンケート調査を実施した。進路相談における機会への関心調査では、「高校生/大学生と進路について話し合える機会に興味がある」人は 69.1%と非常に高く (図 6)、そのうち 38.0%が「受験の経験を聞きたい」と答えた。(図 7)



(図 6) 高校生／大学生と進路について話し合える機会に興味がありますか



(図 7) どのような点に興味がありますか

出典 独自アンケート調査より

また、地域へ意見を伝えられる場所の有無についての調査では、「伝える場所がない」と答えた人は 63.3%で、地域に意見を伝える場所が不足している、またはその認知度が低いことが考えられる。

(3)ねらい

これらのことから、中高生の「進路選択への不安を一人で抱え込ませない機会づくり」や「三鷹市をより子育てしやすいまちにするための機会づくり」を行う。これは、中高生が将来の選択肢を広げられるようにすることや受験に対する不安を軽減すること、市に対して意見表明ができることや社会の一員としての意識形成をすることがねらいとなっている。そして、中高生が将来「子育てしたい」と思えるようなまちづくりを自ら行うことによって、「より子育てしやすいまち 三鷹」の実現を目指し、ミタカ循環モデルを形成することを目指す。

(4)研究提案概要

最終的に中高生の行政参画を活性化するためには、学生のうちから行政を身近なものにしていく必要がある。そこで我々は、中高生と行政を繋げるための橋渡しとして、「ミタカみらいラボ」を行う。この提案は大きく二つのステップに分れている。ステップ①は、「ミタカ step up cafe」という進路相談を通して中高生を支援する活動であり、ステップ②は、「私のまちプロジェクト」という、主にstep①で参加者を募り、実際に自分たちが三鷹で暮らして感じていたことや考えを中高生が市に直接提案をしていく活動である。「ミタカみらいラボ」は三鷹市内の学校や周辺施設等を使用し、大学生が運営し少人数のグループワーク形式で行う。ステップ①では、育てられる側の中高生にとって、進路について、親以外の第三者と話し考える場を設けることで、学校や家とは異なる第三の居場所の形成・受験や進路への不安の軽減・将来の選択肢の拡充を見込んでおり、子育てする側の親にとっては、子どもの進路に対する不安の軽減・親子のコミュニケーションの増加、三鷹市にとっては、中高生の行政参加により、市民満足度の向上・子育て支援のさらなる拡充が見込まれる。ステップ②では、中高生が実際に三鷹市に住んでいて不便に思ったこと、改善したいと思ったことを市に対して提案を行うことで、市に対する意見表明ができること・社会の一員としての意識形成・課題解決能力の向上をみこんでおり、親にとって、子どもの成長の実感・親自身の政治参加意識の向上、三鷹市にとって中高生のシビックプライドの醸成と若年層の市政への意識の向上が見込まれる。

(5)参考文献

三鷹市 2022 「令和 4 年三鷹市市民満足度調査アンケート(2022)」

三鷹市ホームページ

「子育て・教育」

武蔵野市ホームページ

「子ども・子育て支援」

NP0 法人パワーウェーブ日出 2018 「子育ての悩みに関する調査」